様式１（小・中）

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和２年度学校評価 計画

達成度（評価）
Ａ：十分達成できている
Ｂ：おおむね達成できている
Ｃ：やや不十分である
Ｄ：不十分である

学校名	伊万里市立山代東小学校
1　前年度 評価結果の概要	・小中連携による学力向上推進地域指定事業の研究の効果が出てきている。来年度も継続して取り組む。 ・児童に関する連絡会が定期的に実施できず、共通理解を図ることができなかった。日常の会話の中で情報交換をし、できる者ができる範囲で支援に当たってきた。支援会議を行い、計画的な支援ができるようにする。 ・職員に業務が偏らないように工夫する。また、若手職員に対しては,指導だけでなく,寄り添いながら一緒に取り組むように支援をしていく。
2　学校教育目標	笑顔で　元気な　東っ子
3　本年度の重点目標	①　「学び」の楽しさや喜びを味わわせ、学力の向上を目指す。 ②　感性を高め、思いやりに満ちた豊かな人間性を育成する。 ③　基本的生活習慣を身に付けた、心身共に健康で、たくましい児童を育成する。

4　重点取組内容・成果指標　**中間評価**　**5　最終評価**

（1）共通評価項目

重点取組 評価項目	重点取組 取組内容	重点取組 成果指標（数値目標）	具体的取組	中間評価 進捗度（評価）	中間評価 進捗状況と見通し	最終評価 達成度（評価）	最終評価 実施結果	学校関係者評価 評価	学校関係者評価 意見や提言	主な担当者
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80％以上	・言語活動等の表現活動を学習に位置づけ、表現力の向上につなげる。 ・3年以上に算数TTの時間を確保し、基礎基本の向上に努める。	B	・分かる授業・学習習慣の定着についておおむねできているが8割を超えているものの、言語活動などの表現についてまだ課題が残る。 ・TTを活用することで、基礎基本の定着につながっている。	B	・学習習慣の定着は、図れるようになってきた。しかし学習した内容を元に表現する力については、まだ課題が見られるため、授業改善の工夫が必要である。	B	・なぜ家庭学習が必要かを児童に意識されることが必要である。家庭学習への取り組み方、家庭への啓発が今後の課題である。	・学力向上対策コーディネーター ・研究主任
	○基礎基本の確実な定着 ○ICT利活用教育の推進	○授業と家庭学習との繋がりを身につけさせ、スキルタイムとの連携により、学力の定着を目指す。 ○授業中は、積極的にICTを利活用する。	・家庭学習は「学年×10＋10」分を目標にする。 ・電子黒板を積極的に活用できるように配置する。	B	・定期的に「ちゃんと習慣カード」を配布することで、家庭への啓発はできているものの、目標時間に至っていない学年がある。 ・電子黒板等を活用することで、児童の意欲につながっている。	B	・「ちゃんと習慣カード」の記入については、家庭への啓発は図れているものの、学校間との温度差や家庭学習内容については、活用する意義も含め、今後改善する必要がある。	B	・「ちゃんと習慣チャレンジカード」で毎月実施することで、家庭学習の時間の確保,家庭学習の質の向上につなげていく。また、実施状況の集計を生かし、家庭への啓発を図っていく。	・学力向上対策コーディネーター ・研究主任
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○年に2回、道徳に関するアンケートを実施し、肯定的な意見を持つ児童の割合を80％以上にする。 ○縦割り活動について、楽しかった振り返りや相手意識をもった行動ができたという感想を持てた等の児童の割合を80％以上にする。	・道徳教育全体計画の重点目標を念頭に置き、児童の発達段階に応じた授業づくりを行う。 ・いろいろな縦割り活動を計画し、異学年交流を通して思いやりの心を育てる。	B	・確実に授業を行い、振り返りを書かせることで、肯定的な意見をもつ児童が多い。しかし、アンケートは未実施のため，今後取り組んでいく。 ・縦割り活動は感染症対策のため、実施回数が減ったが、縦割り遊びや縦割り掃除などで異学年での交流がはかれ、楽しく活動できたという意見がほとんどだった。	A	・アンケートの結果、「自分のことをよく考えるようになった。」「友達の考えを聞くのは楽しい。」と答えた児童が80％を超えた。 ・縦割り活動は、継続して行うことで異学年の交流ができ、楽しく活動できた。下学年のことを考えて計画を立てたり、お世話をしてくれた上学年の児童に対して感謝の思いを持ったりした児童が多く見られた。	A	・週１時間の道徳の授業を年間計画や児童の実態に基づいて各担任がきちんと取り組むことで，道徳的心情や実践力を高めることができた。	道徳教育教育担当 人権･同和教育担当者 各学年担任
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○学校が楽しいと肯定的な回答をした児童が90％以上。	・くらしのアンケートを実施し、児童の実態を把握。 ・温かく思いやりのある学級風土づくり。 ・職員間の情報交換を行い、連絡を密にする。	B	・10月にくらしのアンケートを実施し、個別に話をする時間を作り、実態把握に努めることができた。 ・職員での情報交換をいかし、担任だけでなく他の職員も児童の対応に当たることで児童に安心感をもたせることができた。	B	・大きないじめの問題もなく生活できた。友達とのトラブルがあった時には双方に話を聞き、解決の手助けができた。 ・職員間で情報交換を行い、全職員で気になる児童に対応することができた。	B	・「気にかかる児童」の状況を教員同士で共有し、それぞれの立場から関わりを持って指導・支援を行っていく。（職員連絡会で共有の時間をとる）	生徒指導担当 教育相談担当 各学年担任
	◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童（小学6年生）85％以上	・児童の資質･能力を育てるための授業実践 ・目的や見通しを持った体験活動を行い、学びの足跡を残すための振り返りを行う。	B	・校内研究に沿った振り返りを活用することで、学習内容のメタ認知につながっている。	A	・授業後の振り返りについては、一定の定着が図れている。しかし、書く内容に関しては、教科の特性に応じて継続して支援・指導していく必要がある。	B	・思いやりのある言動を実践していくために、具体的な言動を紹介する機会を多く持っていきたい。児童自身がそれを行えるような場を設けるようにする。	教務主任 各学年担任
●健康・体つくり	●望ましい生活習慣の形成 ●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●歯と口の健康に関する指導を通して、児童自身の心身の健康に関する実践力を高める。 ●1日3回の歯磨きを実施している児童の100％を目指す。	・発達段階に応じた歯と口の健康に関する指導を計画的に行う。 ・食育だより等を通し、保護者に食育に関する啓発を、歯と口の健康に関連付けながら行う。	B	・虫歯予防週間等に合わせ、保健室前廊下に、児童が興味関心を持てるような掲示を行い、歯と口の健康に対する意識を高めた。 ・保護者に向けて、健康に関するわかりやすい資料や具体的な手立てを書いた保健便り、食育便り等を定期的に配布し、啓発と実践力を高めた。	B	・むし歯治療率は、全校平均37％と低い結果であった。児童が興味関心を持てるような工夫だけでなく、保護者への働きかけをさらに工夫していく必要がある。 ・今年度はコロナ禍ということもあり、講演会等を開催することが難しかった。今後はコロナの状況を見ながら学校3師と連携をはかり、保護者に向けた講演会などを行っていき、保護者の児童の健康に対する興味関心を高めていきたい。	B	・児童に対しての歯科講演会を計画する。 ・保護者に向けて、ふるさと先生や企業の方の講演を実施する。 ・ニュースポーツをみんなでやってみることも、効果があると思う。	保体部長 体育主任 保健主事 養護教諭
	○外遊びの奨励	○中休み、昼休みの外遊びを奨励し、外で遊ぶ児童80％以上を目指す。	・外での集団遊びを紹介し、実践へとつなげる。	B	・集会で一輪車やサッカーのパス等の実演を行ってもらい、運動への興味関心を高めることができた。その効果で、外遊びをする児童が増えた。	A	・持久走大会やなわとび大会などの、運動に関する行事を行ったことで運動への興味関心を高めることができた。それに伴い、外遊びをする児童がますます増えた。	B	・外遊びの奨励を行う。週に1回程度は職員も外に出て児童と外遊びを楽しむ。児童とのコミュニケーションができる。	給食担当
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・ベテランやミドルリーダーを活用し、若手職員に対しては、指導だけでなく、寄り添いながら一緒に取り組むようにする。 ・週案に退勤時刻が記入できるようにすることで業務や時間を意識させる。	B	・若手教諭がベテラン教諭に相談できるようになってきた。また、相談している光景を見ることができた。 ・個人の定時退勤日シールを用意し，自己申告ができるような取組をしたが，まだ定着できていないので日々の言葉かけが必要である。	A	・若手教諭がベテラン教諭に相談できるようになった。また，ベテランも若手育成についての意識が芽生えてきた。 ・昨年度よりは、定時退勤を心がける職員が増えてきた。（新型コロナウイルス感染防止対策による行事縮小が退勤時刻に影響している感じがした）	B	・学校行事の精査，整理や年間活動を見据えた校務分掌の見直し，検討を全職員で進めていく。	管理職
	○校務処理の効率化 ○規範意識・モラルの高揚	○校務分掌が誰になっても対応できるような文書管理をする。 ○明るい職員室づくりを目指し、美化や環境を整える。	・提出文書の一元管理と紙媒体での保存をする。 ・明るい挨拶と笑顔、感謝の言葉が飛び交う職員室になるように働きかける。	B	・提出文書の一元管理と紙媒体での保存ができており、今後も継続することで、事務の効率化に努める。 ・明るい挨拶と感謝の言葉については十分な手だてをとることができなかった。自分から積極的に言葉かけをしていく。	B	・校務の整理と効率化については成果が見られた。校務のデータ整理がきちんとできていたのでスムーズだった。 ・明るい挨拶と笑顔，感謝の言葉が飛び交う職員室になるように心がけた。また,過年度の書類の精選に全職員で取り組んだ。	B	・特に若手職員に対しては、指導だけでなく、寄り添いながら一緒に取り組むように支援をしていく必要がある。	管理職

（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組 評価項目	重点取組 重点取組内容	重点取組 成果指標（数値目標）	具体的取組	中間評価 進捗度（評価）	中間評価 進捗状況と見通し	最終評価 達成度（評価）	最終評価 実施結果	学校関係者評価 評価	学校関係者評価 意見や提言	主な担当者
○特別支援教育の充実	○個に応じた指導体制の充実 ○特別支援教育の推進	○児童に関する情報交換会を月2回以上実施する。 ○特別支援教育について理解を深めるため、職員の研修会を年2回以上実施する。	・保護者面談や情報交換会、校内支援委員会を通して保護者や職員間の連携を図り、共通理解をして支援を行う。	B	・児童に関する連絡会が定期的に実施できず、共通理解を図ることが難しかった。日常の会話の中で情報交換をし、できる者ができる範囲で支援に当たった。	B	・職員連絡会の後に児童に関する連絡会を位置づけるようにしたい。 ・個別の支援計画についてはきちんと作成ができた。	B	・職員連絡会の後に児童に関する連絡会を位置づけるようにしていく。 ・全校児童全体を見渡し、生活面や学習面において、「困り感をもつ児童」にも、今後も、積極的にかかわっていく。	特別支援教育コーディネーター
○地域連携教育の推進	○授業参観・学校行事等において保護者・地域と連携を図る。	○学校便り、学級便り、HP等による学校の教育活動に関する情報を発信する。	・PTA行事、地区の行事には毎回、積極的に参加する。 ・学校便り等で人材を募り、地域の方に学校支援への協力をお願いする。	A	・コロナ禍においても学校や家庭との連携により授業参観・学校行事等を実施することができた。 ・読み語りの方や交通指導員の方、PTA役員の方から支援をいただき学校への協力体制ができている。	A	・学校便り、学級便り等による教育活動に関する情報を発信することができた。 ・コロナ禍でも十分な感染症防止対策をとりながら地域についての学習や体験活動を行うことができた。	A	・学校ホームページの更新をするにあたっては、更新の方法を研修するなどして、担当者を1人にするのではなく、職員であれば誰でも更新できるような仕組みにする。	管理職

●･･･県共通　○･･･学校独自　◎･･･志を高める教育

5　総合評価・次年度への展望	・学力向上については、学習した内容を元に表現する力については、まだ課題が見られるため、授業改善の工夫が必要である。 ・思いやりのある言動を実践していくために、具体的な言動を紹介する機会や場を設けるようにする。 ・運動を好む児童が多く、体育的行事や外遊びなど、積極的に活動をすることができた。 ・本校は、来年度からコミュニティ・スクールになる。PTA、地域の方との連携に努める。また、山代を愛し、山代を育む人材を育成する。山代の「ひと」「もの」「こと」とのかかわりを通じて、自己有用感を育み、将来に夢や希望を語ることができる子どもを育てる。